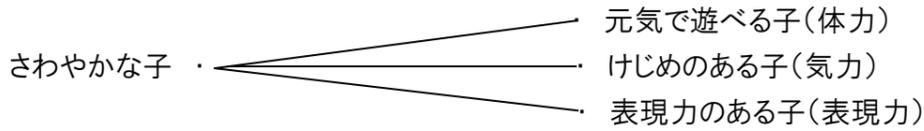


令和5年度 学校法人とくのう学園黒田幼稚園 学校評価

1. 本園の教育目標

(教育目標)

自立心・集中心の芽生えを育てる 豊かな感性・規範性・自立性を培う



(学年目標)

- ・遊べる子(年少) ・夢中になれる子(年中) ・聞くことのできる子(年長)

(指導指針)

優しく、丁寧に、理を分け、可能な限り具体を通して納得のいく指導に努め、聞き入れる力・行動に移せる力を高める指導を進める。

(指導の重点)

望ましい環境構成に努め、園児の理想的な成長を促す

- ・生涯学習理念で教育を進める ・自立と共生、気力と体力の調和的発達を目指す
- ・「一園一学級」を旨とする ・小学校との連携を大切にする

(今年度取り組むべき課題)

- ①ECEQの学びを活かした教育の質の向上を目指す。
子どもが主体的に学ぶことができる保育環境を設置する / ICT教育の導入とT・Tを有効に使い保育の充実を図る
- ②保護者とのコミュニケーションの充実。
個人面談・希望面談を有効に活用しコミュニケーションを図る / 年間を通じて保護者と話す機会を積極的に持つ

2. 教師の自己評価とそれに対する学校関係者評価結果

(1)保育の計画性 評価基準/A:当てはまる B:どちらかと言えば当てはまる C:どちらかと言えば当てはまらない D:当てはまらない

主な評価項目	：		学校関係者評価	
	評価	取り組み状況	評価	ご意見・ご感想
指導計画は、園の方針を踏まえ、子どもの実態などを考慮して作成している。	B	毎年の記録に基づき週案を立てているが、その年度の子どもの実態に応じてより良い保育ができるように見直しをしている。 子ども達が主体的に活動できる保育内容を考え、子どもの様子や状況に応じて時には変えながら作成している。	B	目の前の子どもの実態に合わせて、柔軟に対応してくれている。毎年同じでなく、その都度協議を重ねてくれているのがわかる。製作は上の子の時と似通っているので新しいものを取り入れてもいいかもしれない。
子どもの記録を大切に、次の保育に生かしている。	B	日々の気になる様子や、それぞれの成長を記録し、次につながるように心掛けている。また、保護者とどんな話をしたのかも記憶し、子どもにとって有意義な生活が送れるように心掛けている。 子どもの声に耳を傾けたり、好みの遊びを把握したり、連続性を持った保育を心掛けている。	A	保護者の話を聞き、保育の中で気にかけてくださる事がありがたい。子どものことをよく見ていてくれて、いつ園に行っても子どもの様子や出来事を話してくれる。

(2)保育の在り方 幼児の対応

子どもの健康と安全には、常に配慮している。	A	活動前に、気を付けることや危ないこと等を伝えてから活動するようにし、怪我や危険がないよう環境設定に気を配っているが、子どもたち自身が気づいて気を付けられるような声掛けも意識している。 一人ひとりの顔色や普段と違う様子など、意識して観察したり、朝の会の体温チェックやスキンシップなども大切にしながら、少しの体調変化にも気づけるように心掛けている。	A	少しの体調変化にも気付き、一日を通して気にかけてくれたことを電話などの話からも伝わり子どもを預ける親としてとても安心。 手厚く声を掛け助ける段階から、目を掛け手を放し自立を助ける段階にまで少しずつしていく。そして個の発達段階に合わせる事はとても大変だがやりがいのあることだと思う。
子どもが好きである。子どもに共感し、一人ひとりの良さを認めている。	A	子どもと楽しんだり、喜んだり一緒に笑い合える日々がとても嬉しく、幸せに思う。子どもたちの発見や気付きと一緒に驚き、感動を共有する瞬間に何よりも幸せを感じる。一人ひとりに欲が出てしまい、厳しくなってしまう場面もあるが、愛情をもって保育している。 園内研修(教室を安全基地に！)を通して、一人ひとりの個性や存在を認め思いに共感できるよう意識している。子どもの安全基地になり、子どもに向き合い、受け止めてあげられる先生でありたい。	A	一つの事に対しても、いろいろな先生方が様々な方向から声掛けをしてくださるので、“こんな所も見えてくれる”“そんな風に感じてもらえたんだ”と認められた喜びが自信や安心感に繋がっている。 保育中できるようになり、先生に褒めてもらったこと等帰宅後に嬉しそうに話す子どもの姿が見られた。
個と集団を大切にしたい保育を行っている。	B	一人ひとりの思いに共感することを大切にしてきたが、特定の子に関わりすぎてしまい全体への声掛けが不十分なところがあった。関わり方が難しいと感じることもあったが、チーム・ティーチングで補い合って保育を進めた。 みんなで話し合いたいこと、個別に寄り添い声を掛けたいことなど、子どもの心に訴えられる環境設定を心掛けている。担任だけでなく、副担任と情報を共有することで様々な気付きがあり、バランスがとれていると思う。	A	集団生活の中で、友達と力を合わせて頑張る事や、楽しむ事の一体感、達成感を経験させてもらっている。自分を表現することも大切にして下さっているのが、伸び伸び園生活を楽しんでいる。また、チームティーチングにより、この選択の幅も広がっていると感じる。 子どもに対する接し方や声掛けが一人ひとりの個性を理解した上での対応だと感じる。さらに集団では行事はもとより日常生活でも、クラスが一体となって活動し自分のクラスが大好きな様子が伝わってくる。

(3)保育者としての質の向上のための努力・良識

幼稚園教諭としての指導の「引き出し」を多くしようと心がけている。	A	先生方の声掛けの仕方、新しい考えは参考になる。また、各保育室の黒板や張り紙などは、保育の様子が伺え見るだけでも勉強になる。新しい手遊びを月に1つはできるようにしている。 絵本などから学べる事が多く、様々な絵本に触れたり、保育についての本も意識して読むようにしている。学年会議では情報共有、指導の幅が広がるように学んでいる。	A	子ども達に対する声掛けが、どの先生も優しく穏やかでゆっくりと話していて、先生方がよりよい声掛けの仕方を学び合っているのだからと感じる。 参観に行った時の教室掲示・黒板はとても工夫されていて温かさを感じる。日々努力し共有していることが伝わってくる。
守秘義務を果たしている。	A	職員間で共有するが、園の外では絶対に守秘義務は守っている。	A	

(4)保護者への対応

園だより、クラスだよりなどを通して子どもの様子・教育内容を発信している。	B	写真付きのアプリで様子は伝わりやすいと思うが、短い文章で保育内容を発信することに少し物足りなさを感じてしまう。 アプリを通して、何をしたのか、その時の反応、つぶやき等わかりやすい文章作成を意識している。また、どんな思いで何を大切にしているのか伝える努力をしていきたい。	A	細かく丁寧であれば保護者は嬉しいが、先生たちの負担を考えるとこれくらいの頻度でよいと思う。 アプリの写真付きのおたよりをとっても楽しみにしている。文章もわかりやすく、写真でクラスや子どもたちの様子がわかるので良い。
保護者とのコミュニケーションを大切に、子どもの様子を共通理解している。	B	面談・電話等で受けた保護者の思いに寄り添い、困り感を解消しようと努めている。希望面談の実施で話す機会は増えたが、一年を通して話す回数が少ない保護者もいる。もう少し努力していきたい。 シールノートのコメントは保護者とコミュニケーションをとる一つの大きな取り組みだと感じる。	A	面談で話す機会もあるが、普段から何かあれば連絡して様子を知らせてくれるので丁寧に見ていただけていることがわかる。シールノートのコメントは園の様子がわかりありがたく楽しみにしている。 こまめに電話をいただいたり、子どもの困りごとや様子がいつもと違う等教えていただけて嬉しい。

(5)地域の自然・社会との関わり

地域の自然や施設・機関を保育に活用している。	B	園外保育では、家庭でもなじみのある公園や施設を活用し、場所に親しみをもって楽しく遊んだり季節を感じたりして活動ができています。 浅間大社などでは文化を学ぶことができた。今後は富士山世界遺産や給食施設などの見学、他園交流なども積極的に行きたい。	B	園外保育などいつもと違う環境の中で、季節を感じより自然を楽しむ様子が伺われる。虫や葉・木の実などに触れ、興味が深まるような声掛けにいろいろなことを感じることができている。 園外に出ると子どもの危機管理も大変だと思うが、子どもが家に帰ってから園外保育のことを話す時の生き生きとした様子で園外保育が充実していることが伺える。
------------------------	---	--	---	---

(6)研修への取り組み

年に一回以上は外部研修に参加し保育に役立っている。	A	研修・公開保育に参加することで、保育のヒントを得ることができ、実践したり他の先生とも共有するようにしている。 今年度から研修にたくさん参加する機会があり、学びたいこと深く知りたいことを選び勉強できた。	A	きつと前向きな研修をされているんでしょうが、保護者にその取り組みや様子、成果は伝わることは難しい。 研修などの参加ができると新しい学びや外部からの刺激があり良いと思う。
本園の研修主題に沿った保育を実践することにより、子どもを深く理解し、成果に繋げる努力をしている。	B	子どもにとって、教師はどんな存在なのか、改めて痛感し、人的環境として、自分はどうかあるべきか、常に自問自答しながら保育するように努力している。子どもの思いを尊重して保育を進めることがとても増えた。 子ども達が喜んでICT教育を受けているが、タブレットの操作や準備に時間がかかってしまう。タブレットやアプリの知識を十分に深めて行きたい。	B	ICT教育がどんな感じか気になる。どこまでの教育が進み小学校にどう繋がるのか考えてみたい。子どもはタブレットの興味を持ち始めた。一年生でもパソコンを使うため、幼稚園で楽しく取り組める時間があったらありがたい。 タブレットの保育は子どもも楽しみにしていて毎回家で話す。とても楽しいようなので、機会があったら参観ができるといいと思う。

(7)園運営

子ども達が育つ園行事を企画し実施している。	A	運動会や発表会など行事に向けて、子ども達と生活して行く中でたくさんの葛藤を乗り越え、大きく成長する子どもたちの姿があり、一つひとつの行事を終えるたびに子どもたちの成長を大きく感じることができている。 行事では職員全員が考え、子どもとともに全力で取り組み、当日に至るまでの様々な頑張りや心の成長などの過程を認め大切にしている。また、事後の活動でも子どもの思いを取り上げ楽しむ場を設けた。	A	これまでの過程を何よりも大切にしているという園の思いが、子どもの成長や自信につながっていると感じるし、次へのやる気にも繋がってもらっている。学校評価における保護者アンケート結果からも子どもが行事を楽しんでいる事がよく分かる。 運動会・リズム発表会等行事が終わる度に子どもが一つ大きくなる姿を見てきました。達成感や満足感が子どもの自己肯定感を高め、どんなことでも勇気を持ち挑戦する子を育てているのだと思う。
園の思いを伝える努力と保護者の希望をくみ取る努力をしている。	B	保護者アンケートの実施や園に届いた保護者の意見に耳を傾け、職員みんなて話し合い受け止めて丁寧に対応している。 保護者アンケートでも、園に対し共感と感謝・ねぎらいの言葉をたくさんいただいたので、私たちの子どもへの熱い思いは伝わっていると思う。	A	いろいろな考えの保護者や園児がいる中で、保護者アンケートでは心無い言葉などもあるかと思いますが、「黒田幼稚園らしさ」は失って欲しくない。 保護者アンケートで、園に様々な意見が届くと思うが、届かない意見(従来のやり方で満足・納得している)の保護者も多いのでそう思っている保護者の思いをくみ取って欲しい。

3. 学校関係者評価委員からのその他のご意見・ご感想

<p>・『きつつ』の日を楽しみにしている。新しいことを始めるには、先生方も準備など大変だと思うが、子ども達に新しい学びや表現の場を広げていただけてありがたく感じる。どのように『きつつ』を活用して楽しんでいるのか、保育の様子を参観または、動画で知る機会があると嬉しい。</p> <p>・先生方の自己評価からも、日々子ども達一人ひとりに沢山の愛情を持って関わっていただけていることが伝わり、嬉しく感謝している。</p> <p>・子どもはいつの時代も、泥だらけで遊び、自由を愛し、奔放に動き、様々な発想を抱いて、大人の愛情や人肌のぬくもりに満たされることで頑張る力が湧いている事は変わらないのですが、親自身、子どもにしてあげられる事が、私が子どもの時代に比べて減っている気がします。毎日の忙しさを理由に、家庭で子どもを愛する時間が減っているのではないかと…。と葛藤することも多くあります。幼稚園で過ごす時間の中で、私たちの知らない姿を見てハッとすることが何度もありました。子ども2人を5年間黒田幼稚園に通わせて良かったと心から思っております。今後も黒田幼稚園が変わらず、心が豊かで優しい人を育む場所であって欲しいと願っています。</p> <p>・自己評価、保護者アンケートを見て、園としてまた一人ひとりが子ども達のために日々努力していることがわかる。</p> <p>・コロナ以前のように行事を行ったり、スキンシップを取ることができることは親も子どもも嬉しいことです。</p> <p>・今年度からICT教育を導入したことは小学校のタブレットを使った授業に繋がり、子どもたちがスムーズに入りやすく良い取り組みだと思う。</p> <p>・行事がここ数年縮小していく中で、子ども達が楽しめるように野菜作りやお楽しみの日のスイカ割りをするなど、工夫をし今までできなかった経験をさせてもらい良かった。</p> <p>・全園児の前で発表する機会を誰にでも与えてもらえるので、学校に入学してから自信になった。</p> <p>・笑顔いっぱい、愛情いっぱいの保育をしていただき、親子で幸せな幼稚園生活を送ることができました。黒田幼稚園に通えたこと、本当に良かった！と心から思います。父母の会の活動を通して、先生方や職員の皆様、たくさんのお母さん達と関わることが出来てたくさんの学びがありました。感謝の気持ちでいっぱいです。</p>
--

4. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
ECEQの学びを活かした教育の質の向上。(保育の充実)	・子どもが主体的に学ぶことができる保育環境を設定する。 ・教室を「安全基地」に。
保育活動の充実	・ICT教育・園外活動の充実